

## 平成23年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告書

学校名	愛知県立春日井商業高等学校	課程	金・定
校長名	平野 友春	担当者	渡部 純次
所在地	〒486-0812 愛知県春日井市大泉寺町1059番地の1 Tel 0568-81-1885 Fax 0568-85-9426		
生徒数	18学級 696人(男子 166人、女子 530人)		
通学手段	徒歩：0名 自転車：687名 原付：0名 バス：0名 電車：9名 その他：0名		
特色	本校は、国際ビジネス科・情報会計科・情報処理科の3つの学科が設置されている商業高校である。校訓「よりたかく」の下、生徒は自分の夢と希望を実現するため勉学や部活動、学校行事に意欲的に取り組んでいる。生徒指導に関しては、基本的な生活習慣の確立、集団におけるルール・マナーの遵守、登下校時の安全確保3つの柱に掲げ、安全で充実した学校生活が送れるように指導にあたっている。		

## 1 実施状況

## (1) 取組テーマ

- 生涯を通じて「命の大切さ」を意識し行動できる交通社会人の育成
- 地域・関連機関と連携し、商業高校の特性を生かした交通安全教育の実践

## (2) 取組内容

## ア 教科・科目・ホームルーム活動・学校行事等を活用した交通安全教育

## (ア) 交通安全講話

- a 実施日：平成23年6月9日(木)
- b テーマ：自転車に関する交通法規及び乗車マナー
- c 内容：地元自動車学校の教官を講師に招き、自転車の安全な乗り方や交通ルールの重要性について講話を実施した。

d 場所：本校体育館

e 対象：全校生徒

## (イ) HR「自転車マナーアップ教室」【資料1参照】

- a 実施日：平成23年7月7日(木)
- b テーマ：交通社会人としての自覚、自転車の安全な乗車方法
- c 内容：『セーフティ・アクション21』の「No.1 交通社会人としての自覚はできている?」、  
「No.2 自転車は歩行者?それとも車両?」を活用し、交通社会人としての自覚を高めるとともに自転車を安全に乗車する方法を学んだ。

d 場所：各教室

e 対象：全校生徒



〔交通安全講話〕

- (ウ) 課題研究「自転車シミュレータ体験教室」
  - a 実施日：平成23年10月25日(火)
  - b テーマ：自転車乗車時の危険体験
  - c 内容：(株)本田技研工業の安全運転普及本部から講師を招き、自転車シミュレータを使用して日常に潜む危険を再確認し、危険予測能力の大切さを学んだ。
  - d 場所：本校会議室
  - e 対象：3年生情報会計科「課題研究」  
(スクールインフォメーション講座12名)



〔自転車シミュレータ体験教室〕

- (エ) HR「交通安全教室」
  - a 実施日：平成23年12月15日(木)
  - b テーマ：自動車免許取得に伴う危険と責任
  - c 内容：『セーフティ・アクション21』の「No. 15 四輪車の免許を持つことは、プラス、マイナスの両面がある」を活用し、自動車免許を取得することに伴う責任と安全な運転態度の育成を図った。
  - d 場所：各教室
  - e 対象：3年生
- (オ) 交通安全啓発グッズ(作品)制作
  - a 実施日：平成23年12月6日(火)～12月16日(金)
  - b テーマ：交通安全を啓発するグッズ(作品)のデザイン及び作成
  - c 内容：本校生徒の交通安全に対する意識を高めるためにはどのような手法が有効かを話し合い、各自で交通安全啓発グッズ(作品)をデザインし、作成した。完成した交通安全啓発グッズ(作品)は校内に展示したり、近隣の小学校や高校、老人ホームに提供するなどして、交通安全の啓発に役立ててもらおうよう依頼した。
  - d 場所：パソコン実習室等
  - e 対象：3年生情報会計科「課題研究」  
(スクールインフォメーション講座12名)

ミニのぼり	横断幕
	
小旗	ポスター
	

〔交通安全啓発グッズの例〕

## イ 教員主体の交通安全活動

### (ア) 自転車車体検査

- a 実施日：平成23年4月11日(月)～15日(金)
- b テーマ：自転車の整備点検
- c 内容：HR 副担任と生徒指導部員が通学用自転車の整備状況を確認し、安全な自転車通学方法について指導した。
- d 場所：各クラス駐輪場及び中庭付近

### (イ) 登校時の交通安全指導

- a 実施日：通年
- b テーマ：交通安全呼び掛け(登校時)
- c 内容：生徒指導部を中心に毎朝 5, 6 名の教員が正門や学校付近の通学路に立ち交通安全を呼び掛けた。また、交通安全週間には横断幕を掲げ、地域一体となった安全意識の向上に努めた。
- d 場所：正門及び通学路



【交通安全指導】

### (ウ) 『ゼロの日』下校指導(年9回)

- a 実施日：平成23年5月10日(火)、5月20日(金)、5月30日(月)、6月10日(金)、6月20日(月)、9月20日(火)、9月30日(金)、平成24年1月20日(金)、2月10日(金)
- b テーマ：交通安全呼び掛け(下校時)
- c 内容：下校時に教員が正門や学校付近の通学路に立ち、交通安全を呼び掛けた。
- d 場所：正門及び通学路

### (エ) ハザードマップの作成・掲示

- a 実施日：年2回(9月、3月)
- b テーマ：通学路における危険情報の共有
- c 内容：PTA 役員と一緒に通学路点検を行った結果や生徒からの交通事故報告や危険情報をもとにハザードマップを作成した。作成したハザードマップは大判プリンタで印刷し、廊下等の生徒の目につきやすい場所に掲示し、注意喚起を促した。



【ハザードマップ】

## ウ 生徒主体の交通安全活動

### (ア) 朝の交通安全運動

- a 実施日：毎月3回 第1月曜日・・・1年風紀委員  
第2 〃 ・・・2年 〃  
第3 〃 ・・・3年 〃
- b 内容：風紀委員が登校時に正門や学校付近の通学路に立ち、交通安全の旗を振りながら、本校生徒や地域の方々に対して安全運転を呼び掛けた。
- c 場所：正門及び通学路



【交通安全運動】

### (イ) 駐輪場整理及び自転車点検

- a 実施日：毎月1回 第4月曜日・・・全学年風紀委員
- b 内容：風紀委員が各クラス駐輪場に立ち、登校した生徒に整理して駐輪するよう呼び掛けた。その後、自転車点検を行い、未施錠や不良箇所をチェックをした。
- c 場所：各クラス駐輪場

- (ウ) 交通安全推進標語コンテスト  
 a 実施日：平成23年9月5日(月)～9月16日(金)  
 b 内容：風紀委員が中心となり、交通安全に関する標語を10作品選び、全校生徒が投票し優秀作品を決めた。優秀作品については関連するイラストをつけて掲示板に掲載した。



- (エ) アンケート調査・分析 【資料2参照】  
 a 実施日：各学期1回 第1回 7月 7日(木)、第2回12月15日(木) (標語コンテストの優秀作品)  
 b 内容：学期毎に自転車乗車に関するアンケートを行い、各クラス風紀委員がその結果を集計した。集計結果をもとにヒヤリハット体験や交通事故の状況と原因を分析し、クラスで報告した。

#### エ 保護者と連携した交通安全教育

- (ア) 通学路点検「PTA『愛のパトロール』」  
 a 実施日：平成23年7月23日(土)  
 b 内容：PTA役員と教員が学校周辺の通学路を巡回し、交通事故多発場所や危険箇所の把握と安全対策を話し合った。
- (イ) PTA合同下校指導  
 a 実施日：平成23年6月10日(金)、6月20日(月)、10月5日(水)～7日(金) 計5日  
 b 内容：毎回PTA役員5名と教員が学校周辺の通学路に立ち、生徒への危険箇所の注意と交通安全を呼び掛けた。

#### オ 地域関係機関と連携した交通安全教育

- (ア) 自転車マナーアップ推進会議  
 a 実施日：平成23年11月24日(木)  
 b 内容：春日井警察署において「自転車マナーアップ推進会議」が開催された。市内の小・中・高すべての学校関係者が参加し、自転車の盗難防止や正しい乗り方のマナーアップ指導方法等が協議された。また、ポスター「自転車の正しい乗り方」が学級数分配布され、掲示と指導の徹底が依頼された。
- (イ) 市民街頭大監視  
 a 実施日：平成23年9月26日(月)、12月5日(月)  
 b 内容：秋の全国交通安全運動、年末の交通安全県民運動期間中に春日井市交通安全推進協議会が主催して行う市民街頭大監視で、教員とボランティア生徒数名が主要交差点や通学路等に立ち、歩行者や自転車利用者に対して安全を呼び掛けた。
- (ウ) 交通安全・人権教育DVD「朗読劇『あいみでの・・・』」【資料3参照】  
 a 実施日：平成24年2月3日(金)  
 b 内容：自動車学校へ通学している生徒(希望者)を対象として、TAV交通死被害者の会中部交流会から提供された交通安全・人権教育DVD「朗読劇『あいみでの・・・』」の台本を活用した学習会を開催し、交通事故被害の現実と命の大切さを学んだ。

## 2 成果と今後の課題

### (1) 成果

#### ア 交通安全に関する意識の向上

- (ア) 自転車アンケートの「昨年度より交通ルール・マナーを守ることができているか。」という問いに対して「おおむねできている」と回答した生徒が、全体の約75%(第1回)、約73%(第2回)と高い割合を占めている。
- (イ) 交通事故報告件数が昨年度37件から本年度27件に減少した。
- (ウ) 交通安全講話やHR「自転車マナーアップ教室」を実施したことにより、自転車が車両の一種であるという理解が深まり、事故に遭わない、起こさないという雰囲気が出た。
- (エ) 正門や通学路に教員、PTA役員や風紀委員が定期的に立ち交通安全を呼び掛けたことにより、一時停止や右側通行禁止等の交通ルール・マナーを意識する生徒が増えた。
- (オ) 風紀委員を始め交通安全運動に参加した生徒には、自らが率先して交通ルール・マナーを遵守しなければいけないという自覚が芽生えた。

#### イ 生徒の実態把握

- (ア) アンケート結果から生徒の自転車運転状況や安全意識について次のような実態を把握することができた。
  - ・運転中「ヒヤッ！」と感じた経験がある生徒が約70%と高い割合を占めている。
  - ・軽微なものも含めると「交通事故の経験がある」と回答した生徒が学校の把握している件数の約3倍であった。
  - ・ヒヤリ体験や交通事故の原因として「前方不注意」の割合が高く、その対象には「壁などの建造物」が多かった。このアンケートで知った生徒の実態をもとに今後の安全指導も工夫していけると感じた。
- (イ) ハザードマップ作成のために、事故現場や通学路の危険箇所へ直接行き、生徒の通学の様子を確認することができた。その結果、ルール・マナー遵守の指導とともに危険予測や危険を回避する方法についても指導に取り入れていくことが重要だと分かった。

#### ウ 地域・関係機関との連携

- (ア) 春日井警察署主催「自転車マナーアップ推進会議」、自動車学校講師による「交通安全講話」、交通安全推進委員会からの啓発資料の提供等、それぞれの関係機関と連携して活動を行うことができ、地域全体で生徒の交通安全を推進する認識が強まった。
- (イ) 生徒が作成した交通安全啓発グッズ(ミニのぼり、小旗)を近隣の学校や老人ホームに配布し、地域全体での交通安全意識の高揚に努めることができた。

### (2) 今後の課題

- ア 交通事故報告件数は減少しているが依然として多い状況である。「ゼロ」を目標に更なる取組を検討していく。
- イ 生徒主体の活動をより充実させ、交通安全の意識を生徒同士で高めていけるようにする。
- ウ 危機管理能力が不足しているので、危険を予測し回避する方法についても指導していく。
- エ 地域住民と連携し、地域全体で協力して交通安全に取り組む体制を提案していく。

### 3 まとめ他

本校では、約 98%の生徒が自転車を通学手段として利用している。そのため、今回の実践では大半を自転車乗車マナーに関する取組とした。初めて全校生徒に対するアンケートを実施し、その集計結果から生徒の自転車運転状況や意識について把握し、今後の指導の方向性を見出すことができた。

自転車運転に限らず交通安全に対して高い意識を持つことは、安全・安心な交通社会の構築のために大変重要なことである。「交通安全 一人ひとりが みな主役」の標語のように、生徒一人ひとりが交通社会を生きていく上で必要な資質と責任を身に付け、交通社会人として自他の命を尊重できる人間に育つよう、これからも交通安全教育に取り組んでいきたい。

## 【指導案】「高校交通教育の実践」

日時・場所	平成 23 年 7 月 7 日(木)6 限 各教室	
対 象	全校生徒	
テーマ	自転車マナーアップ教室	
ねらい	交通社会人としての自覚を高め、自転車を安全に乗車する方法を理解させる。	
使用教材	『セーフティ・アクション 21』 「No. 1 交通社会人としての自覚はできている？」 「No. 2 自転車は歩行者？それとも車両？」	
授業展開	学習活動	指導上の留意点
導 入 (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車アンケートに回答する。</li> <li>・学校における交通安全の取組を理解し、意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風紀委員にアンケート用紙を配布・回収させる。</li> <li>・生徒へプリントを配布する。</li> </ul>
展 開 (30 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故データから高校生の年代の事故が多いことを知る。また、その原因について考察する。</li> <li>・自転車が車両であることを理解し、乗車ルール・マナーについて確認する。</li> <li>・登下校の様子を写した写真から並列・飛び出し等の危険について知る。</li> <li>・ハザードマップをもとに通学路における危険箇所を知り、危険回避の方法についてグループで討論する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の交通行動を振り返らせる。</li> <li>・安全な交通マナーについて考えさせる。</li> <li>・通学時の自転車の乗車方法がいかに危険を伴うかを十分理解させる。</li> <li>・交通事故報告や事例から、事故の特徴や原因について考えさせる。また予測能力の重要性に触れる。</li> </ul>
まとめ (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の自転車乗車について自己評価をする。</li> <li>・安全運転の重要性を再確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価が良くなければ、今後の安全運転のきっかけとさせる。</li> <li>・どんなときも「心のゆとり」が大切であることを理解させる。</li> </ul>

配布資料の一例

- ・標識及び自転車走行に関する説明内容



- ・通学路における危険箇所及び危険行為の説明内容



## 自転車アンケート結果

	質問	回答	1学期		2学期		3学期	
			件数	%	件数	%	件数	%
			688	100.0	675	100.0	462	100.0
-1	登下校中に主として自転車を利用しますか。	a. 利用する	672	97.7	659	97.6	452	97.8
		b. 利用しない	16	2.3	16	2.4	10	2.2
-2	今学期に自転車を運転している時「ヒヤッ!」と感じた経験はありますか?	a. ある	497	72.2	448	66.4	245	53.0
		b. ない	191	27.8	227	33.6	217	47.0
-3	【(2)の間で「ある」と答えた人】 アそれはどのような相手ですか? (複数経験している場合は、複数回答可)	a. 車(バイク、自転車など)	454	91.3	394	87.9	222	49.6
		b. 歩行者	124	24.9	129	28.8	72	16.1
		c. 壁などの建造物	154	31.0	116	25.9	65	14.5
		d. その他	21	4.2	10	2.2	5	1.1
	イそれはどのような理由・状況で発生しましたか? (複数回答可)	a. 相手の違反行為	310	62.4	250	55.8	162	36.2
		b. 一時不停止・安全確認不足	149	30.0	145	32.4	68	15.2
		c. 飛び出し	78	15.7	59	13.2	35	7.8
		d. 前方不注意	136	27.4	117	26.1	49	10.9
		e. 傘差し運転	16	3.2	12	2.7	5	1.1
		f. スピードの出しすぎ	57	11.5	54	12.1	28	6.3
		g. 並列走行	26	5.2	30	6.7	18	4.0
		h. 自転車右側通行	25	5.0	19	4.2	11	2.5
		i. 携帯電話・イヤホン	34	6.8	25	5.6	10	2.2
		j. その他	33	6.6	21	4.7	10	2.2
-4	【(2)の間で「ない」と答えた人】 それはなぜだと思いますか。(複数回答可)	a. 気を抜かない	39	20.4	55	24.2	68	30.0
		b. 時間にゆとりをもつ	51	26.7	69	30.4	67	29.5
		c. 周囲に気を配る	77	40.3	111	48.9	83	36.6
		d. 危険な場合は停止する	74	38.7	84	37.0	81	35.7
		e. 交通法規を守る	29	15.2	36	15.9	36	15.9
		f. その他	13	6.8	14	6.2	3	1.3
-5	今学期、自転車を運転中(通学時に限らず)に交通事故を経験しましたか?	a. ある	83	12.1	79	11.7	49	10.6
		b. ない	603	87.6	596	88.3	413	89.4
-6	【(5)の間で「ある」と答えた人】 ア 事故の相手は何ですか? (複数経験している場合は、複数回答可)	a. 車(バイク、自転車など)	52	62.7	51	64.6	21	26.6
		b. 自転車	17	20.5	17	21.5	14	17.7
		c. バイク	2	2.4	4	5.1	5	6.3
		d. 歩行者	2	2.4	4	5.1	4	5.1
		e. 外壁などの建造物	13	15.7	7	8.9	5	6.3
		f. その他	5	6.0	3	3.8	1	1.3
	イそれはどのような理由・状況で発生しましたか? (複数経験している場合は、複数回答可)	a. 相手の違反行為	42	50.6	36	45.6	30	38.0
		b. 一時不停止・安全確認不足	21	25.3	16	20.3	12	15.2
		c. 飛び出し	8	9.6	11	13.9	6	7.6
		d. 前方不注意	12	14.5	15	19.0	8	10.1
		e. 傘差し運転	2	2.4	3	3.8	2	2.5
		f. スピードの出しすぎ	6	7.2	5	6.3	9	11.4
		g. 並列走行	2	2.4	2	2.5	3	3.8
		h. 自転車右側通行	2	2.4	5	6.3	2	2.5
		i. 携帯電話・イヤホン	4	4.8	2	2.5	1	1.3
		j. その他	9	10.8	1	1.3	0	0.0
-7	今後、自転車運転で気をつけようと思うことを選んでください。(主なものを3つまで)	a. 指定場所での一時停止	239	34.7	230	34.1	196	42.4
		b. 交差点での安全確認	307	44.6	305	45.2	224	48.5
		c. 傘差し運転をしない	155	22.5	131	19.4	110	23.8
		d. 二人乗りをしない	108	15.7	102	15.1	66	14.3
		e. 右側通行をしない	62	9.0	80	11.9	43	9.3
		f. 信号無視をしない	276	40.1	238	35.3	157	34.0
		g. 並列走行をしない	77	11.2	103	15.3	64	13.9
		h. 歩道などでの歩行者優先	76	11.0	83	12.3	53	11.5
		i. 交差点の安全進行	126	18.3	113	16.7	69	14.9
		j. 携帯・イヤホン走行をしない	132	19.2	107	15.9	59	12.8
		k. スピードを出しすぎない	278	40.4	249	36.9	173	37.4
		l. その他	6	0.9	9	1.3	2	0.4
-8	今年度の登下校の状況を振り返って、昨年度より交通ルール・マナーを守ることができていると感じますか。	a. おおむねできている	505	73.4	493	73.0	372	80.5
		b. あまりできていない	154	22.4	159	23.6	86	18.6
		c. まったくできていない	10	1.5	23	3.4	4	0.9

## 朗読劇「あいみでの・・・」を用いた学習会

- 方法 : 朗読劇の台本を各自で黙読し、感想を書いて発表する。
- 生徒の感想から抜粋
  - ・とても悲しい気持ちになりました。悲しすぎました。泣きたくなった。
  - ・この話を聞いて改めて交通事故の恐ろしさを知った。
  - ・同じような交通事故でたくさんの若い尊い命が奪われていると思うと心が痛む。
  - ・被害者の家族の悲しみや憎しみが痛いほど伝わってきた。
  - ・自分が家族であったら毎日悲しみ、加害者を憎しみ、笑えない日々を送るのではないか。
  - ・交通事故で家族を失っても頑張って進んでいる人たちを守る法があればいい。
  - ・この物語を読んで人の命がどんなに大切か知ることができた。
  - ・わざとでなくても一人の人間の命を奪ったのだからもっと重い処分をするべきだ。
  - ・自分が車を運転するようになったら安全で周りを思いやる運転をしたい。
  - ・自動車に乗るということは、自分の命だけでなく、人の命までも奪ってしまうことを忘れずに注意して乗りたい。
  - ・人権とは何かを改めて考えさせられました。亡くなった人にも人権はあるべきである。
  - ・この台本は人間の生々しい気持ちが出ていて、心に残りました。機会があればこのような劇を頭の中でだけではなく演じてみたい。
  - ・何かあった時は自分最優先ではなく、第一に相手のことを思える、そんな人になりたい。
  - ・運転で事故を起こした時の対応をしっかりと学んでおかななくてはいけない。
  - ・わざと事故を起こす人はいないと思うけど、真実を話すべきである。
  - ・加害者は自分を守ることで精一杯だったのではないか。
  - ・加害者も人を死なせてしまったことはずっと忘れないと思う。
  - ・加害者は人生を掛けて責任を負うべきである。
  - ・人間は結局自分を守ってしまうのかもしれない。